

俛諧
發句

花乃并集
秋冬



鳥翠のるす

海子とてふは

みづき

園の由

西山道人



月次
歌刻

花乃井桑秋

以先平くうれへ来るや相成る	<small>イセ古マ</small>	梅
新焼子川うせくくやちりやゆき		白曉
よりて多うぬけのあつとまの秋	<small>イ六</small>	立志
船書や新あつと別て結らる		和川
松平かゝるきさるや浦の秋	<small>イ七古マ</small>	梅亭
以年似ぬ色の廣きや秋の志		一巻
あつ風ま重りあをたてて早秋	<small>井亦</small>	子原

中つり海をよつたの乳母カキ け
 月うらも不なる若戸田や崎地別因ちた 玉 博
 川うらの唄カキ 多きるそくりぶ 舟 凡
 川凡の喜もつめめすまうか 蟻 甲
 優不ことく流行る花やカキ 舟カキ 舟 吉
 はまらわくく流の乳のる花やカキ 文 治
 かつ袖も花もひまする小坂系れカキ 祀 松
 所くあくあくそくそくカキ 菊 可 承 松 月 松
 秋凡やうも別海ぬ海のくカキ 龍 龍 龍
 是と葉のまうカキ 若字カキ 一め糸カキ 永承 蓮 糸
 のもむもく花夜うカキ う角カうカキ 公 牙

けりうのみのくうりかひくくカキ 山 石
 けりうくくまひくやくくめカキ 龍 玉
 ねりや子の種つ牛の白カキ 松 月
 送う火や小村えぬぬ大ゆカキ 糸 松
 月の帰も流る流るカキ 娘の海 白 松
 庭押ハカキ 虫の鳴る糸 波 松
 山カキ のおのくく月うカキ の声カキ 松 若
 月の出カキ 一そくすカキ 流る身 樹 松
 侯柳やカキ のよれカキ 友と相カキ 松 松
 相一葉カキ 流るるカキ 松のくカキ 松 凡

十六夜のや雲とくしるもの中務
 水一書の秋の萩
 江のゆくも海をく流して雲の秋
 中よりあめいしく満ちりて初めは
 管刈くも手も寸草や萩の声
 入るゑいそなる羽音や後り多イハ
 つの川や穂まきく穂のうけも也
 物もれくわも木橋くやとくも林ホ
 吹やきくくくも凡もくも是意武
 有めの手うて月や夜明けのうき
 雲初や松のうきもあはれのうき金
 南 梅 花 萩 去 救 意 花 面 真
 的 候 在 海 身 波 初 山

唐棣の一際くくくゆる秋
 吹分て免のくゆるすまきも
 長月してまきく萩おる月も
 所変も空ぬくもや雲の麻糸
 舟もまきく雲のまきくも人いひ
 廣はや海もくも付た秋の色水口
 のり初もくも月もやとくもサナ
 沸くくも何ぬくもくもくも
 舟もまきくまきくもひもあも月も
 月もくもも指きくもくもくも四川
 年かきくもくもくもくもくも
 杷 柳 習 貝 金 柳 岸 百 里 梅
 柳 水 翁 線 浜 間 棣

白くして里を後の葉ゆきく申ワカ 素流
 ぬくせや多くもさむ松葉ハカ 白院
 十六方とつよるや月のさゆり キ工ニ
 崎の田や海をつれさるぬの波 桂庭
 まとのぬね松は梅やふゆの力 翠松
 山陰や扱ハるめくく菫の香イガ 漆シ 表
 日くあつて海の中や初ハ 表 夕
 鳴止くあつて入るや路の石イガ 清シ 水
 ちの丁くさるぬさきとよくハカ 二 扇
 名月や石浜くうね山は寺 善 推
 釣うちや日弁のるくまね喚 舎 器

ハ朝ヤリ 走 多よ おひ起 重 石
 名月やひくう 伏又の竹の下イガ 茶 甲
 ゆくあつてぬのさくやさき 龜 石
 本多くあつて戸はく夢や菫の香 松 石
 海へ日の入るもぬね山ハカ 山 花
 海月や理ふくくおの香 花 表
 不二とよく目のるくく海ハカ 石 伊 せ みるり
 多きうくくうのさくくや新の花ハカ 表 城
 橋のせはほくもさくくや実角イガ 上 澄 白
 芝新ハカ さや穂波の上を夕日ハカ 一 松 村
 山陰もさくぬくくハカ 一 表 菌ハカ とう 因ハカ 表 水

瑞くくもやし押よきくもきまのま 柳 青
 人くたのゆめや 鴨のましつぐいガヨノ月 子
 つゆちるや 枝の小きのうららく夏 雲 岸
 月さしけ性根のまあるけく一舟、ボリ 葉 枝
 やしのけけもさうりの地まき、小西ノ 一 枝 園
 ちハ森りもつふあまやハ友光は松今 松 枝
 しりゆやちのうららハ皆中系 森 ぎ
 十六音ハららる休ゆるるくち中りぬを 共 日
 名月や生しうすまき人あまきせヒゼン 舟 乃
 人のくくもうららるる角カウレ 一
 うららこのほよもら一水や水の月 折 更

高うぬ池うらゆきくねささ 新 水
 入りき守江のむし橋や神もあ 造 外
 きのあま袖摺を音やうの月ち幸 梅 香
 人声のやまよきしや 葉 橋サカキ 籠 井
 子屋やききよさうら小松系系 昇 山
 一咲うららうらうら友のうらえんヤマト 風 笑
 ハ船やあまき母木のゆきかや系 吐 身
 くらり内や料のくさくれうら松 應 波
 うきこまきく燈消るうあまの西イセツ 雲 乃
 名月や道あまき変まのあま 人 如 舟
 移入て乃のそよそよ松や林の声 百 和

二村の一海らちや 子りらちサチ 宿甫
 木野や海もそらぬ 移木系タニ 思静
 如骨せしう 果き及ぬ 果あが 逸外
 物もせしう 声流らちう 心らぶ 親在
 けあらしう 之崎の羽音 乳カノ山 公素
 空の海乃そ音たう 月の電イハ 雅寛
 つらの方う 月ハわらうて 天の川 和お
 月もそらぬ 和と 庭流て 月の湖クマノ 珠葵
 くらう 音も 声の 文 去や 野の 静 異山
 一し 乳もや 所流らち ぶ 元在 知 未長
 果の 入ら けらう 成らう 系 静 院周あ 棧 考

天へさしう 系 声 去 色 や 月の 麻 極 亭
 岩 文 系 なく 力 たり して つの の あり 羽 水
 ゆりく と 系 も あつ け け の 月イハ ハ 声
 あき 風 けり 匠 系 け 系 流 の 乳 せん 川 左 逸
 山 甲 心 林 代 の そ や つ の の 系サチ 吳 玉
 橋 つ 系 や 流 へ 流 へ 木 の 系 逸 外
 人の 系 けり 掃 流 や 菊 の け け け 一 志
 けり けり や 杖 と 離 け 花 一 つ 静 美
 流 れ あり 系 流 系 や 系 の 系 系 系 系 系
 板 けり けり けり 甲 系 の 系 系 や 橋 の 板系 系 系
 更り や 系 けり けり けり けり けり 系 系 系 系

猶くりも紙そへて異なり四面のワカサ 東夕
 せしきそし龍のあてありけしものそ 曉月
 夕のの海むるありけり之れ月 床栞
 秋乃そそ初やそする花の香イカ 佳詞
 照らりる日のつらふそやニカ 産泡
 けしころそ産まゆくあ約けふ 歳辰
 各所もあらしそ旁のつらふ 如所
 彼死りまゆよそやそ産のそ 逸外
 来合しそ吸亮もそよそ産のそ 向曉
 山より月のそりそ産の秋めワカサ 百木
 旁のそやそ産のそそかきり舟 晴高

風むらの漲りし陰立て後の月ワカサ 栞高
 ゆく林や月そそそそそそそ 又湖
 森つしそ思ひおしそ産のそニカ 龍外
 まく月やそそ産のそ松の泡也イカ 玉去
 そそそそそそそそそそそそそ 風波
 まく吹や疎りゆそ産のそカサ 向曉
 尺幅てそそそそそそそそそ 晴高
 栞のそそそそそそそそそそそ 望海
 舟とそそそそそそそそそそそ 照水
 こそあそそそそそそそそそそ 如照
 尺幅そそそそそそそそそそそ 如禱

おのゝそとけりつあき松高式
 面をうつらそひらくき火式水口
 り秋や豆のうら照る江のゆり三木
 葉ハちりそあし一候や梅姫タキ
 左なさら海をばあすわらふイホ
 音のあはるさやうくのちのろワミミ
 九重のくもりや秋乃うらひきイハ
 葉、舟の燈さるるさうきワカサ
 今すきまをさるるあや秋の、糸
 星交乃移さるるさうきイセ
 おくそんそんそんあはるさうきサチ

盤 龍 車 迹 義 呈 左 今 南 明 青 雅 秋 是 在 園 梅 亭 重 泡 未 岡

鳴らうら、舟の舟けり月の海ヒセニ
 つらうらや秋高きまのイセ
 洞ハ影うらあかりのあまてらヒセニ
 子の戸や、高のうらまイカ
 を見それのあまてらイセ
 あまてらと一役すまやイセ
 一 あはるさうき初イセ
 ともせくと成代のあまてらヒセニ
 葺うらや海まあつら松の喚大ミウ
 うきそしれ月のつやあつらワツカ
 結つらとあまてらイセ

南 明 春 法 花 在 木 浜 生 乐 庭 一 傍 葺 系 梅 雄 一 扱 里 洞

横よりし 松葉照 寸許 髪水 サチ 貝 寄
 松竹のほろろく 世話 土添 水ぶ 玉 寄
 葉垣より 月のくく 小 家 うれ ニホ 在 月
 うへりて 声ささり や 葉の 穂 サガ 吳 玉
 戸をの なる 葉の 芽を 救 ユケ 車 迹
 清む つき おく せり かりぬ 相 即 ユケ 画 水
 吹く すす 松の 葉こし や 月 の 葉 ハク 枝 在
 うき 葉の 心 葉よめ くる くる 息 カ 松 欠
 昔年の 心 かん けり の ち 乃 月 多 月
 子の 戸の 死し かりぬ 菊の けり 伯 芳
 所 ころの 推 一本 や 寄 一 孔 懸 欠

一 煙り 上り 秋の 明や 晩 鴉 刈 タケシ 湖 村
 千の 遠く 春の ころ や 雪の 一 荒 越
 仇 成り ころ みの けり ころ 鳴 イカ 一 志
 うき 葉の 心 葉よめ くる くる 息 カ 懸 欠
 鴨 あり 葉の ころ や 雪の 一 荒 越
 新 葉の 芽の ころ や 雪の 一 荒 越
 煙 垣 葉の ころ や 雪の 一 荒 越
 葉の 心 葉よめ くる くる 息 カ 懸 欠
 家 の 持 けり 時 ころ 鐘 や 里 の 寄 在 園
 葉の 心 葉よめ くる くる 息 カ 懸 欠

きくくく や月と栞の小松ヒゼン 菊
 巳う紫くそれで因へとふ木の葉カサ 友
 ぬれ色くちるとさき切りちりイガナリ 松
 比五日ハまのりりヒサ 松
 百つゆハ聖くすられてきりちイカナ 有
 凡とすり欲もそふれて、垂扇子ヨシ 氣
 栞くちりすす一日の百や栞ちり十六 甲
 以ふくひりちりりや合菊イゲモ 招
 文丹やまきつちり人くちりイタ 明
 り秋くくく竹のあつてちりイタ 青
 旁をれやまきくくイタ 人の声 松
 松 菊 明 招 甲 有 都 友 友 的

鳥羽玉のやまきくく 枝りり花のみ十六 松 玉
 ちりや葉くゆも必らせて葉の右イタ 松 林
 玉まきく木のえちりやちりくの花イタ 波 園
 てり合せて日く入惜くむれ紫イタ 梅 壽
 海ぬあもちりりてまぬや村イタ 花 壽
 ちりくま引くちりくまぬイタ 松 壽
 一とせのりのハまのりりてひイタ 松 里
 二夜のまきくめておハあり萩のイタ 月 海
 残籠も一まきくをくくイタ 葉の松イタ 公 牙
 くらくハちりくちりくちりイタ 松 北
 いりりくくく や 掃くくくくイタ 松 北

せむき草で 裾を絞るや 子の糸
 月代や 穀こきりー ききる京
 于 繰くまきゆきく 甲の夕日くれ
 かり 秋も 名結のつゆや 夜の時 は甲サキ
 花をく人そ 静やて 夕日の菊
 花もも 身を 細くー 結のせい ワツカ
 頂う 翠の谷く 夕田の力く ちくれ
 送折く ぬくく 夕あさり 十日菊 は六シ
 夕の 戸口く 夕や 新田麦 イガタリ
 山のく 結くも 夕ー 夕ぬ紫
 信の 川るを 秋風のゆき はカモ
 五 五 月 月 月 月 月 月
 五 五 月 月 月 月 月 月

夕浪山の月をく 夕や 夕く 夕く 夕
 在のく 夕も 夕や 夕の 秋 カキ
 夕表く 夕一本 夕き 夕く 夕
 夕く 夕く 夕向く 夕ー 夕 夕尾茶 タカヤ
 夕く 夕や 夕の 夕通守 夕あさ イセツ
 夕灘も 夕あさり 夕ふ 夕海 水口
 夕一丁 夕も 夕煙や 夕の 夕菊 水口
 夕の 夕く 夕く 夕く 夕く 夕の 夕け 水口
 夕あさく 夕懐く 夕あさく 夕 夕 夕 水口
 夕も 夕く 夕の 夕あさく 夕 水口
 夕も 夕く 夕く 夕く 夕く 夕 水口
 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕
 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕 夕

花の并集秋終

紫の落^してく^るに^は終^るや^は如^し乃^は柿^の園^の水
か^らち^りし^てさ^らく^まやく^や嵐^の山^梅
掃^てら^る庭^の掃^除や^十日^菊
菊^の香^や冷^く人^の呼^ぶ子^の生^交梅^壽
○ 山^の入^る通^り泪^不り^しち^は尾^の祀^取頂
○ 室^させ^は四^方に^毎り^くを^は秋^の声^有節

月次
新刻
美の并集冬

旭^うつ^のり^て雪^をと^りや^きの^籠子^は十九^梅
山^の下^や貢^をち^りて^急ひ^に清^いが^り茶^を
こ^ひま^そハ^ちち^りし^てく^るに^は終^るや^は如^し乃^は柿^の園^の水
風^や吹^くに^は雪^をと^りや^きの^籠子^は十九^梅
芽^は捲^て居^るや^おも^ろ乃^は清^い水^先把^花
さ^らち^山の^下に^雪を^とり^て急^ひに^清い^がり^茶
む^らに^及び^て急^ひに^清い^がり^茶
山^の下^に雪^をと^りて^急ひ^に清^いが^り茶^を
剛

灯と燭とて燈も標遠寸は五銭、ナ工 倉 翠
美多の忌れ喜きとや小云云、坂本 ぬ
あゝ海や吹返さるる鳴子とて、永年 抽 箨
望そめとて、あはらう世のあそび イガキ 招 依
十月や悟らうとて、急ひとて 二六 小 扭
去る燈も去地をぬれて、林の 両方 玉 岩
去る花のちとて、やひその急 ワカサ 去 就
我来とて、あはらうとて、尾を シナニ 去 月
振らぬとて、あはらうとて、拈拈 イガ ぬ 輪
えりちや、えりちや、山の七、社 イガキ 徳 洞
らう海や浪もちとて、も子のと 上 工 剛

宮と教とて、月おたりとて、山 山 池 部
雲崎とて、あはらうとて、山 有 雅
村とて、あはらうとて、山 千 拈
枯竹のつとて、あはらうとて、山 拈 翠
必帆のとて、あはらうとて、山 キ 工
そとと、山とて、あはらうとて、山 暁 月
本枯や、月とて、あはらうとて、山 城 甲
水多や、あはらうとて、山 本 札
旭とて、あはらうとて、山 氷 店
あはらうとて、あはらうとて、山 言 駘
あはらうとて、あはらうとて、山 ぬ 駘

雲月 明星たうふ十 秋の南風サキ 貝
有明てりふのまきや 音のぬ 梅
嫩うらうらまのあうや 鳴き音、神ホ 艶外
夕風り 庭指する喜や 枯柳、言ハ 向曉
たつきや 涼風あーさ 秋の上ワカサ 过石
秋入てまきと 服まや 枯尾花 乐梅
さくええー 方うまきそくう 花のめ 盤鏡
宗那る 枯柳くまそや 月と 鐘、言ハヤ 杞板
あうくうまきまきや 秋の木の葉、イカ 菴挺
江中うらうら 露のするとくうゆの 月セツ、 春風
雪の花り 眉指のかゆー ちのうく、は水口 車逸

神坐てうちへ 入りたる、神ホ 萩
秋の暮るふ 秋のせれりうまイカ 芦青
あふろーくう 云すまきう 秋木立、 似芳
ころ 秋手 追々、 露や 雨の あさり 花梅
あてこれ 月あー 雲の けさ 晴う、言ハ 未園
雪のりや 秋 掃つてふて 掃つて 冬、言ハ 鏡月
さうあまの 詠 居るうらうら 秋、言ハ 伊セ みる
あハ 雲手 産まされ 秋 交ふ 冬、言ハ 南明
まきまき やまら けり 秋の 雨うら、言ハ 花在
ふれあま 人をまきまき 秋、言ハ 沢磐
あすー 一 株まきー 枯尾花、言ハ 青山

ちりちり 浮きもろくろく 竹の若い 若き 梅 後
 沖松のくまきくまき 金の口 口 向 定
 中しうろく く や冬の月 月 青 松
 さくさく く や春の く 山 く 木 固
 ちりちり く 山 く 木 固
 え松 く 山 く 木 固
 あ く 山 く 木 固
 同 く 山 く 木 固
 室也 く 山 く 木 固
 ちりちり く 山 く 木 固

くりの 梅の く 山 く 木 固
 朝日 く 山 く 木 固
 た く 山 く 木 固
 終子の く 山 く 木 固
 ちりちり く 山 く 木 固
 髪 く 山 く 木 固
 朽 く 山 く 木 固
 ちりちり く 山 く 木 固
 ちりちり く 山 く 木 固
 ちりちり く 山 く 木 固
 ちりちり く 山 く 木 固
 ちりちり く 山 く 木 固

木まきすけけ月夜や鳴るなり ハヤギ 未
垣ありしころひすきあしうらうら ハヤギ 曰 市
うらうらもあつて風流よ茶作 ハヤギ 花
子の敷もくぬひとらやふり ハヤギ 義
下うれぬやてハ明ぬやゆさの門 ハヤギ 樹
とくちや岩と小橋のころぬ ハヤギ 倉
あつたかきさや川田 ハヤギ 池
ゆを揚てけ ハヤギ 柳
あつたけり ハヤギ 橋
さき ハヤギ 橋
志賀の野とやこの力やあ ハヤギ 荒

かをけきハ家の鳴りや ハヤギ 夜
ゆけうのつと ハヤギ 外
東てあ ハヤギ 同
す ハヤギ 有
戸 ハヤギ 松
ハ月 ハヤギ 琴
う ハヤギ 我
ま ハヤギ 南
ふ ハヤギ 去
城 ハヤギ 遠
孫 ハヤギ 南

舟とちて焼の通ひたり大三十ロイ六
もらむ人の科あつりきつそそイヤ
あのをきのりてはきき一丘の松
そよ一花や撫のそそそそそ木想ワ舞
きおれの初久すやくれの山
ぬよとりより一さのつやさのきイ六
拵よき一さの山りく一松小流水口
吹られ一花にけり一さの入
佐なるのき江の上やきお拵
き月と流よりさき一あまのきイガ
を拵とて又ゆへくすうさうさ
みく
等
過
石
八
声
子
乐
和
川
義
皇
佳
洞
波

ハシハヒと膝もくしれと一のら
こ月や地と陸ま一ものくけね枝イラ
す拵やおらりらむの仮き一ろイ六
もつとよや丈一もさのつろ山いさきヤ
くれつやとくもはらきいゆはの系治本
山風のうくきくやららら小きう南ね林ホ
ゆるりもさままくくく一のら
ゆくと一の門や秀一花の色いんお
一ひさやうくさくやくさくさく好
ぬさくらくくくさくてくさくやくさくの尾イガ
は拵くさくもく山くさくのか例く南ヒゼン
言
雅
め
麟
画
松
南
明

ぬつとふまゝくお惜しむるらん
 三日内のゆりうらうらと
 羽をうきつ田の落や
 去る花もはば乃は
 ゆりうらうらと
 随ちうまゝくひま
 去く押や長
 ぬつとふまゝくお惜しむるらん
 三日内のゆりうらうらと
 羽をうきつ田の落や
 去る花もはば乃は
 ゆりうらうらと
 随ちうまゝくひま
 去く押や長

花乃并集巻終

慶應二丙寅春



皇都

三條寺町東入

下子屋源治郎

押小路高倉西入

亀屋武助

書林

寺町御池下

松屋久兵衛



花乃并集

